新聞感想文コンクール

高知新聞社主催「第20回新聞感想文コンクール」で、マドン・ティリーさんが最優秀を受賞しました。

題名：「自分らしくいきていくために」

令和5年5月25日掲載の高知新聞「学び方　自分で決める」通信制高校　存在感増す』

の記事を読んで

高校生の部

最優秀

自分らしく生きていくために

高知北1年（高知市）
マドン・ティリー

今日は誰と会えるのだろう。どんなことを学ぶのだろう。心を弾ませながら歩く、爽やかな朝の鏡川沿い。かすかな潮の匂いとともに体を吹き抜ける風がすがすがしい。向かう先は、今春入学したばかりの高知北高校だ。

「高校で学びたい」という意欲のある幅広い年代の人々が集まり、夢に向かって共に勉強に励む通信制。一人ひとりの個性を尊重する、開放的で和気あいあいとした雰囲気が大好きだ。親切な先生方や頼りになる先輩方、同級生たちに恵まれた私は、楽しく充実した高校生活を送っている。家庭を持つ人や働く人も多く、非常に良い刺激になっている。週に一度のスクーリングでは、仲間同士で学習へのモチベーションを高め合い、家でまた机に向かう、そんな日々を過ごしている。

なぜ、私が北高の通信制へ進んだのか。

中学1年の時にいじめに遭い、不登校になった私は、学校から学習支援を受けながら、自宅で計画を立てて勉強するようになった。家にはこもることなく外へ出かけ続け、学校では会えない人と積極的に交流するうちに、自分の視野が一気に広がっていった。中学2年の時には好きな音楽をきっかけに沖縄に興味を持ち、その歴史や文化について掘り下げて考えてみたり、いろいろな人と意見を交わすことで視点を変えて沖縄を眺めてみたりと、深く探究するようになった。数年後には自分の足で現地を訪れ、未知の何かに触れてみたいという夢があり、今も勉強を続けている。

学校に行かないことで、一度落ち着いて自分を見つめ直す時間ができ、進路とも向き合い始めた頃、通信制での学習の仕方を知った。好きなことと両立しながら自学自習に取り組んできた私には、自ら学び続ける力を生かせる北高がぴったりだと確信した。そして4月、晴れて未来への一歩を踏み出したのだ。

入学前は今のような生活は少し想像できなかった。いじめられたトラウマもあり、不安を拭い切れず、学校に対しどこか斜に構えてしまう自分がいた。だが、そこはむしろ、自然体で安心して過ごせる、息のしやすい場所だった。新たな出会いを心から楽しんでいる今の自分に、一番自分が驚いている。入学から数カ月しかたっていないけれど、確かに私は変わり、ちゃんと進歩している。再スタートができたようでとても嬉しい。

「あんたが悪いがやない、もっと自分に自信を持って堂々としちょってえいがで。」

中学生の頃に祖母から言われたこの一言が、前へ進む勇気になったことをふと思い出した。不登校であることに対する容赦のない偏見を何度も目の当たりにし、心が折れそうな時もあった。しかし、その中で多くの人に支えられ、励まされてきたからこそ、ここにたどり着いた私がいる。今度は自分がそんな苦掛けのできる、誠実で優しい大人になりたい。誰一人取り残させないような、思いやりであふれた温かい社会を目指していくために。これからも挑戦を恐れず、自分にしか歩めない人生を力強く切り開いていきたい。

それぞれが自分のペースで一歩ずつ前進できるよう、多様な学び方をサポートする通信制高校で学ぶ人が、近年増えているという。記事にもあるように、高知でも自宅で学びながら、さまざまな分野で生き生きと輝く生徒がいる。中には私のように、高校が自分の世界をさらに広げる良い機会になった人もいる。

学校に行けなくなっても大丈夫。定められた道なんて、本当はどこにもないから。そして、未知なる可能性を秘めたかけがえのないあなたを応援し、温かく迎え入れる場所が高知にもあることを忘れないで。かつての自分と似たような境遇にある人に今、通信制の生徒の一人として、そう伝えたくてたまらない。